

地誌 第7回「東南アジア地誌② 農業と工業」

○今回のポイント

東南アジアの農業地域

モンスーン気候と人々の生活

○モンスーンの影響…雨季と乾季に分かれる

- ・ [①] …乾季に火入れをし、雨季に種子を播く。
- ・ [②] …雨季が始まる4月下旬に稲の栽培をはじめ、乾季の到来とともに収穫する。
⇒稲の生育期に十分な気温と降水のある東南アジアは、世界でも有数の稲作地域。

東南アジアの稲作

(1)水田地帯

- ・ [③] 地帯…エーヤワディー川(ミャンマー)、チャオプラヤ川(タイ)、メコン川(国際河川)、ホン川(ベトナム)
- ・ [④] …ジャワ島、バリ島などで傾斜地を階段状にして稲作。

(2)タイの農業と緑の革命

a.従来の農業形式

- ・ 世界有数のコメの生産国であったが・・・単位面積当たり収量は主要生産国の中でも低い
- ※国土の大半が [⑤] 気候であったため、灌漑をしなければ乾季の作付ができない
- ※収量の低い浮稲などを栽培していた

b. [⑥]

○ [⑦] 年代から始められた、新しい品種を開発して収量を増やす努力

- ・ 生育日数が短い高収量品種の導入と普及
- ・ 灌漑、排水設備の整備
- ・ トラクターなどの農業機械の導入
- ・ 無肥料、無農薬から化学肥料や農薬の投入
- ・ 近隣農家との共同作業にかわり雇用労働力の利用



資本集約・労働力集約農業へ



乾季稲作が急速に普及、二期作も可能。
収量は約2倍に増加。

○ [⑧]

- ・ 「緑の革命」はインドやフィリピン、メキシコなどでも稲、小麦、トウモロコシなどの作物で実施された。しかし、肥料や農薬などへの支出が増え、農民の間に経済的な格差が広がった。

プランテーションの発達

○植民地支配と農業

- ・ [⑨] …欧米諸国による植民地支配により始まる大規模な企業的農業。先進国の企業などが資本や技術を提供し、現地の人や移民を低賃金で雇って輸出向けの商品作物を大規模に栽培する。

○外国資本と多国籍企業

☆1960年代、日米が資本を投入し、多国籍企業の子会社を通じて、生産、流通、販売を行う。

a. [⑩] プランテーション…マレーシア、インドネシアのスマトラ島、カリマンタン島

b. [⑪] 園…フィリピン。2000～3000haにも及び広大。大部分は日本に輸出。

c. コーヒー… [⑫]。社会主義の集団農業から [⑬] に転換。労働意欲向上。

ASEAN の結成と工業化の地域差 (教科書 p.204～)

ASEAN の結成

(1) 第二次世界大戦後の地域秩序

近代東南アジア 欧米列強の植民地 (※タイは英仏の緩衝国となったので唯一独立を保つ)



WWII 後、東南アジア諸国独立 ⇒ 冷戦構造に巻き込まれ、資本主義国と社会主義国の対立



インドシナ半島の共産化 ⇒ [⑭] に ASEAN 結成
語呂 ; タマシイのフイ(タイ・マレーシア・シンガポール・インドネシア・フィリピン)

(2) ASEAN の質の転換

ベトナム戦争・カンボジア内戦の終結により、秩序が安定



反共組織から経済・社会・文化の面での協力をする組織へ転換
1999 年までにブルネイ・ベトナム・ラオス・カンボジア・ミャンマーも加盟

外資の導入と急速な工業化

○ 輸入代替工業から輸出指向型工業へ

- ・ [⑮]
→これまで輸入に依存していた繊維や日用品などの軽工業製品を国内で生産できるようにすることを目指して工業化すること。国内市場が小さく、技術力に乏しいと工業発展には結びつかない。
- ・ [⑯]
→外国資本(外国企業)の誘致を進めて、自国の安価な労働力を利用して工業製品の生産及び輸出を行うことで、工業化を進めること。輸出加工区をつくり、外国企業の法人税や輸入関税の優遇・安価な労働力と工業用地の提供により工業化に成功。途上国が工業化を進める際の有効な手段となるが、外国資本により経済を握られ不安定になることもある(アジア経済危機・アジア通貨危機)。

工業化の進んだ国々

- ・ 1 番手 : [⑰] …アジア NIEs のひとつ。輸出指向型工業により GNI は先進国並み。
- ・ 2 番手 : マレーシアとタイ…輸出指向型工業政策の外国企業誘致に 80 年代以降低賃金労働力を求める日本が応じ、急速に工業化が進む。
- ・ 3 番手 : インドネシアとフィリピン…輸入代替工業化にある程度成功し外国企業を排斥した [⑱] とクーデターによる政情不安定だったフィリピンでは輸出指向型工業化が進まず。アジア NIEs や日本の資本により工業化が進む。

工業化を目指す後発国

- ・ インドシナ半島諸国は [⑲] したため、工業化が遅れる
- ・ ベトナム…1986 年市場開放政策を進める [⑳] (刷新) を展開、95 年に米国が経済制裁を解除し ASEAN に加盟できたので、外資の投入が急増。(他の ASEAN 諸国よりも労働力が安価なため)
- ・ カンボジア、ミャンマー、ラオス…内政が不安定なため、他の ASEAN 諸国への出稼ぎ労働者となり、低賃金労働力を供給している。